

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 30 年 4 月 10 日

事務事業名		学校図書館活性化事業				事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け				新規/継続 単独/補助		事務事業No. 020101000983	
総合計画の施策名		0201 学校教育の充実				新規		090801	
政策名		02 生きがいを育む学びのまちづくり				単独		所属課 教育指導課	
施策名		01 学校教育の充実				主要事業		グループ 教育指導グループ	
手段名		01 ①教育内容の充実				未来PJ事業			
		①教育内容の充実				合併建設計画事業			
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目		一般会計				単年度繰返し (年度~)			
会計						← 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			
款									
項									
目									
事業									
細									
01									
10									
01									
03									
00									
00									
法令根拠									

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力員を3名配置し、担当の学校(1人あたり5~6校)の学校図書館の蔵書をデータベース化したり、学校図書館環境を整備したりする。	学校図書館協力員の配置及び管理、消耗品の配付をする。また、学校図書館協力員研修会を実施して、学校図書館の充実を図る。

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
児童生徒並びに教職員が学校図書館を活用しやすくするために、学校図書館協力員を全小中学校を対象として、5~6校に1名ずつ配置し、学校図書館の蔵書をデータベース化したり、学校図書館環境を整備したりする。	学校図書館協力員の配置人数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	0.00
	学校図書館協力員研修会の実施回数	回	2.00	1.00	2.00	2.00	0.00
				0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
市内小中学校の児童生徒。	児童数	校	2,090.00	2,090.00	1,988.00	1,988.00	1,988.00
	生徒数		1,141.00	1,141.00	1,072.00	1,072.00	1,072.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
学校図書館を積極的に活用するようになるとともに、読書を好むようになる。学校図書館の活用率や児童生徒の読書量が増加する。	みんなにすすめたい一冊の本教育長賞受賞率(小)	%	99.40	98.70	95.00	95.00	95.00
	みんなにすすめたい一冊の本教育長賞受賞率(中)	%	83.20	90.60	80.00	80.00	80.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移		28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	期間限定 総投入量	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0
		その他	千円	0	0	0
		一般財源	千円	2,954	2,907	2,996
	事業費計(A)	千円	2,954	2,907	2,996	3,002
人件費	正規職員従事人数	人	0.00人	0.00人	0.00人	
	述べ業務時間	時間	0.00	0.00	0.00	
	人件費計(B)	千円	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	2,954	2,907	2,996	

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)		
	01 報酬	2,839		01 報酬	2,928	
	09 旅費	68		09 旅費	68	
	合計		2,907	合計		2,996

(4) 当該年度の実施内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する			
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 			

事務事業名	学校図書館活性化事業	事務事業No.	20101000983	所属課	教育指導課
-------	------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	平成22年度緊急雇用創出事業「学校図書館蔵書整理事業」として事業を開始する。国庫支出金により全小中学校に学校図書館協力が配置されたことにより、学校図書館蔵書がデータベース化され、バーコードによる貸出が可能になった。学校図書館環境が改善され、児童生徒及び教職員の学校図書館利用率が増加したり、児童生徒の読書量が増加したりした。平成23年度からは「学校図書館活性化事業」として、名称を変更して実施、平成25年度で一端終了したが平成27年度から再開した事業である。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	学校図書館協力員の配置により、学校図書館の環境が整備され、活用しやすくなった。今後も継続してほしいという要望が全小中学校から寄せられている。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	3名で16校を回っているが、人員を増やすことにより、図書館の整備が進み、図書館を利用しやすい環境になる。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 学校図書館の整備が進み、児童生徒及び教職員が積極的に学校図書館を活用するようになり、学校教育の充実に結びついた。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 新学習指導要領改訂の趣旨にもあるように、児童生徒の学力向上、豊かな心の育成のためには本事業を推進することが必要不可欠である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 3名で市内16校を回っているが、人員を増やすことにより図書館の整備が進むため、利用率等の向上が期待できる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 学校図書館の整備が滞り、利用に関しても向上が望めない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 他に類似事業名はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある 地域住民のボランティアによって事業を行うことにより、人件費を削減できる可能性はある。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市内全小中学校に学校図書館協力員を5~6校で1名の配置としたため、どの学校においても年間を通してほぼ同じ日数を配置することができた。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																							
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	計画どおりに事業を進めることができ、全小中学校において学校図書館の整備が進んだ。今後、整備された学校図書館環境が維持されるとともに、更なる活性化を図るようになる必要がある。																							
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																							
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下			×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上			○																				
	維持			×																				
	低下			×																				
・学校図書館協力員3人が14校を分担して業務に当たっているため、1校当たり週に1日しか勤務できないため、十分な支援ができない。 ・学校により図書管理システムが異なるため、学校間及び市内公立図書館との連携が難しい。 ・多くの学校が古いフリーソフトの図書管理システムを活用しているため、新しい蔵書データベースソフトと不具合を起こすことが増えている。	(6) 事務事業優先度評価結果																							
	成果優先度評価結果 ① コスト削減優先度評価結果 ⑨																							

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> A B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>